

【概要版】

第4期中期目標・中期計画等に係る  
自己点検・評価報告書（令和5年度）

京都大学



KYOTO UNIVERSITY

## 令和5年度の自己点検・評価について

第4期中期目標・中期計画に係る自己点検・評価の実施にあたっては、各中期計画項目を担当する各理事の下、部局の取組状況も踏まえつつ、各計画の施策にかかる令和5年度1年間の取組状況について点検・評価し、大学評価委員会での検証を経てとりまとめました。

第4期2年度目を迎えた令和5年度においては、前年度に抽出された課題に対する対応状況を確認するとともに、引き続き課題のある計画については残り4年間で目標・計画を達成できるよう改善策を検討しております。

各計画の進捗状況は昨年度に引き続き順調であり、特に若手研究者を支援する取組、共同研究の受入れが順調であるとともに、中期目標で掲げているエビデンスベースの法人経営に資するアカウンタビリティレポートの制作・公表等も好事例として確認できました。

また、新型コロナウイルス感染症による影響が落ち着いたことで、海外渡航を伴う留学生のリクルート活動や戦略的パートナーシップ事業による国際シンポジウムの開催等も活発になってきており、国際関連の中期計画について、今後さらなる進捗が期待されます。

一方で、物価や人件費、光熱費の高騰など昨今の社会情勢により、依然として予算状況が厳しい中、一部計画では財源確保が課題として抽出されており、引き続きの財政基盤強化の努力が必要となっております。

引き続き、この点検・評価を大学の教育研究活動等の改善・向上に活用するとともに、令和8年度に実施される法人評価（第4期4年目終了時評価）に向けて着実に実績を蓄積してまいります。

大学評価委員会委員長 時任 宣博

# 1. 中期目標・中期計画に係る自己点検・評価の結果（概要）

全44計画のうち標準となる「【Ⅲ】中期計画を実施している」が38計画、最上位の「【Ⅳ】中期計画を上回って実施している」とした計画が6計画（再掲含む）です。

## 「【Ⅳ】中期計画を上回って実施している」とした計画

- ・中期計画【18】（再掲【21】）：若手研究者の支援に関する取組
- ・中期計画【25】：国際共同研究の推進に関する取組
- ・中期計画【37】：産業界からの研究費受入れに関する取組
- ・中期計画【40】：情報発信に関する取組
- ・中期計画【41】：自己点検・評価に関する取組

評価項目	教育研究の質の向上				業務運営の改善 及び効率化	財務内容 の改善	自己点検・評価、 情報提供	その他 重要事項
	社会との 共創	教育	研究	その他				
Ⅳ 計画を上回って実施している			2(2)	1(2)		1(2)	2(1)	
Ⅲ 計画を十分実施している	4(4)	12(12)	6(6)	6(5)	4(4)	3(2)	1(2)	2(2)
Ⅱ 計画を十分実施していない								
Ⅰ 計画を実施していない								

※表中の数字は計画数、（）内の数字は前年度の結果

## 2. 「【IV】中期計画を上回って実施している」と判断した取組等

### 【研究】

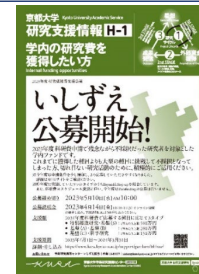
#### 「若手研究者スタートアップ研究費」・「いしずえ」・・・計画【18】（再掲【21】）

##### 「若手研究者スタートアップ研究費」

令和4年度（174件）及び令和5年度（194件）の累計で、368件の支援を実施している（各年度の新規採用見込人数を踏まえた予算配分の積算対象人数を支援件数として算出）。単年度あたりの支援件数（100件）を約30%上回って支援しており、予定以上に幅広い若手研究者支援を実施している。

##### 「いしずえ」

令和4年度から累計99件を採択しており、単年度あたりの採択件数（50件）を順調に達成している。大型種目へ挑戦する研究者にとっては、科研費が獲得できなかった年にも切れ目なく研究活動を継続することができ、科研費採択後にスムーズに研究を開始・加速させることができる。



### 【その他社会との共創、教育、研究に関する重要事項】

#### 国際共同研究の推進に関する取組・・・中期計画【25】

On-site Laboratory事業による国際共同研究の支援として、スマート材料研究センター、ウィタヤシリメティー 科学技術大学院大学（VISTEC、タイ）、国際戦略本部が合同で国際シンポジウム「VISTEC-Kyoto University Joint Symposium: Recent Advances in Chemistry and Smart Materials」を企画・実施し、127人の参加者を得ることができた。（令和5年11月27～28日実施）。同シンポジウムにはMahidol環境学教育・研究拠点（タイ）およびグリーン多孔性材料ラボラトリ（シンガポール）からも研究者が参加し、研究連携の状況や研究成果について発表を行い、ASEAN地域における化学、材料分野の研究交流を促進することができた。上記On-site Laboratory事業のほか、戦略的パートナーシップ事業においてもファンドを拡充するなど、支援件数が計画以上に進捗し、評価指標を大きく上回った。また、On-site Laboratory事業においては、国際共著論文が25報となるなど成果も確認できている。



### 【財務内容の改善に関する事項】

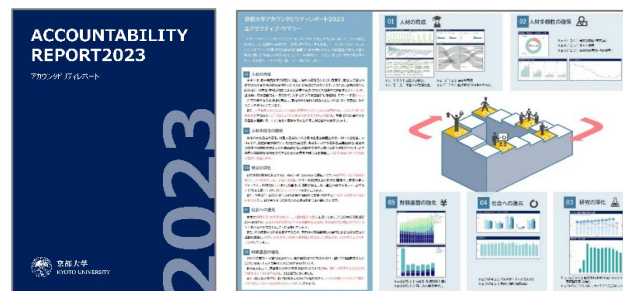
#### 産業界からの研究費受入れに関する取組・・・中期計画【37】

共同研究受入額が第4期中期目標としていた80億以上に進捗し、すでに評価指標を大きく上回っており、過去最高の増加額を受け入れた。さらに新たな案件も複数動いており、これからも実績の増加が見込める。特に、株式会社堀場製作所と、長期視点で未来社会を見据えた連携を深め、共創により新たな価値を創出し、複雑な社会課題を解決することを目的とし、未来社会の共創に向けた包括連携協定を締結した。実用化が急がれる目先の研究ではなく、長期的視野に立った将来の分析・計測・制御技術に繋がる研究シーズの創出をめざし、期間10年間、研究費総額年間最大1億円を目途にした共創に取り組んでいく。

## 【教育及び研究並びに組織及び運営の状況について自ら行う点検及び評価並びに当該状況に係る情報の提供に関する事項】

### 情報発信に関する取組・・・中期計画【40】

- 新たに制作した「アカウントビリティレポート2023」は、京都大学公式ホームページで公表するにあたり、PCやスマートフォン等のブラウザ上から閲覧できるデジタルブック形式を採用し、高いユーザビリティを実現した。アカウントビリティレポートの制作・公表を通じて、大学の運営や成果、状況に係る情報公開の程度を質と量ともに向上させていくとともに、基本情報のデータセットやその分析に資する情報が誰でも容易に入手できる環境の整備を進め、本学のビジビリティ向上に繋げた。
- 動画ポータルサイト「KyotoU Channel」では、本学の教育研究を魅力的に紹介する新規動画「京大先生、質問です!」というコーナーを設けた。本学のSNSを通じて、一般の方からあらかじめ教員に対する質問を募り、専門家目線で解説する試みで、一方的な発信だけでなく、双方向の対話による研究成果の社会への還元を行う取り組みとなっている。



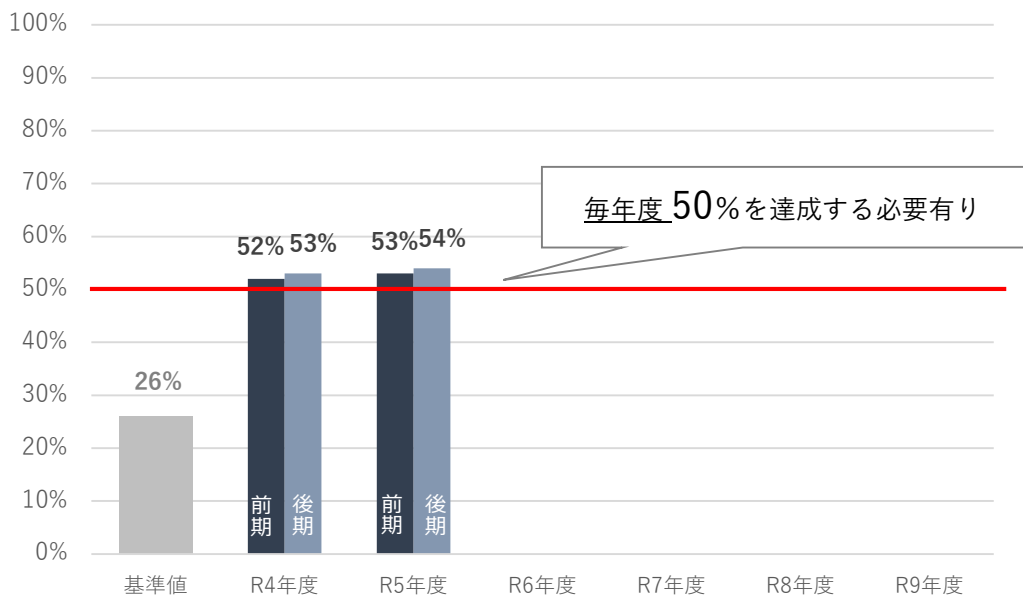
上記の新たな取組により学外のステークホルダーに対する積極的な情報発信が強化されているとともに、KUONの登録者数も順調に増加しており、計画を上回って実施した。

### 自己点検・評価に関する取組・・・中期計画【41】

中期目標・中期計画に係る自己点検・評価について、学内外の様々なステークホルダーの意見を踏まえて、報告書とは別に概要版を新たに作成することで、評価指標の進捗を簡単に把握できるようになったほか、法人評価の4年目終了時評価を見据えた自己点検・評価報告書の記載項目等の見直しや、部局の好事例を学内で共有するための部局の取組事例集の新規作成することにより、より効率的な評価の実施に繋げていることから、計画を上回って実施していると判断した。

## 評価指標【1】（再掲【9】）

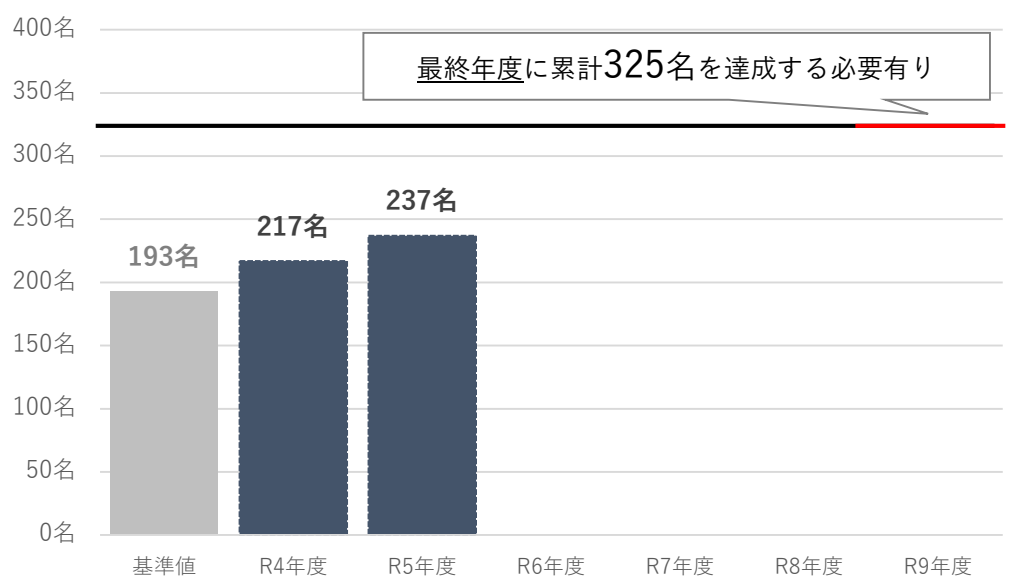
授業料相当額の支援を受けた博士後期課程学生（留学生を除く）の割合 **50%**  
（基準値：令和元年度の日本人博士後期課程学生在籍者数に対する授業料免除率（全免のみ）26%）  
（達成時期等：第4期中期目標期間中 **毎年度**）



## 評価指標【2】

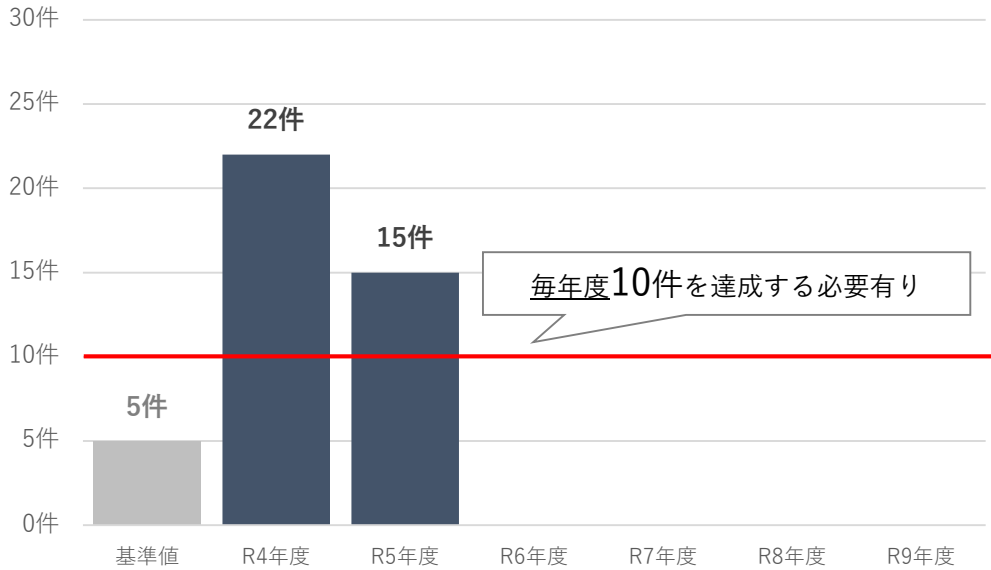
意欲的な  
評価指標

白眉プロジェクトによる研究者採用数 **累計325名**  
（基準値：令和3年度累計193名）（達成時期等：第4期中期目標期間**最終年度**）



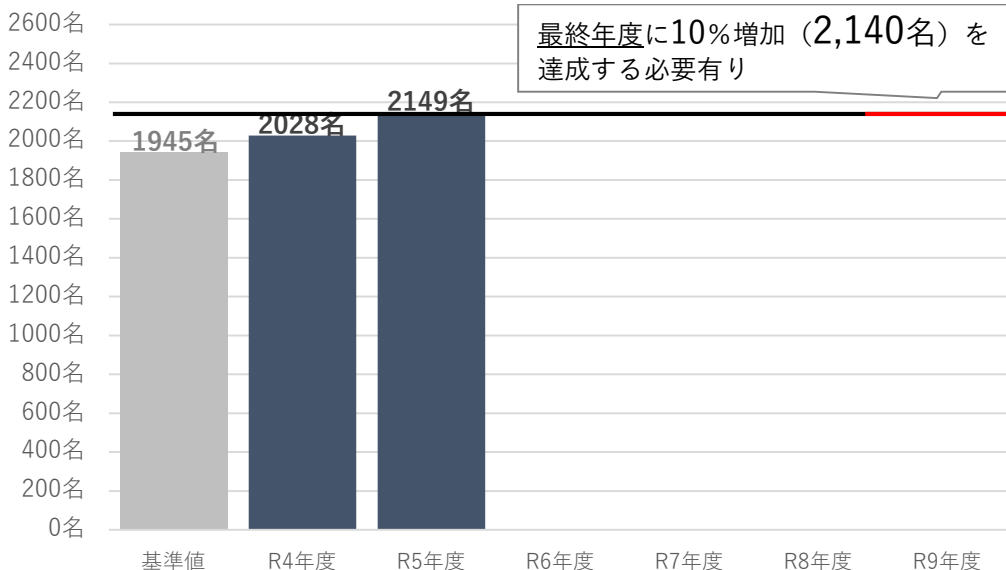
## 評価指標【4】 -2

学際研究・産官学共創研究・国際プロジェクトの支援数 **10件/年**  
 (基準値：令和2年度5件(学内支援事業の人社重点領域枠))  
 (達成時期等：第4期中期目標期間中 **毎年度**)



## 評価指標【6】

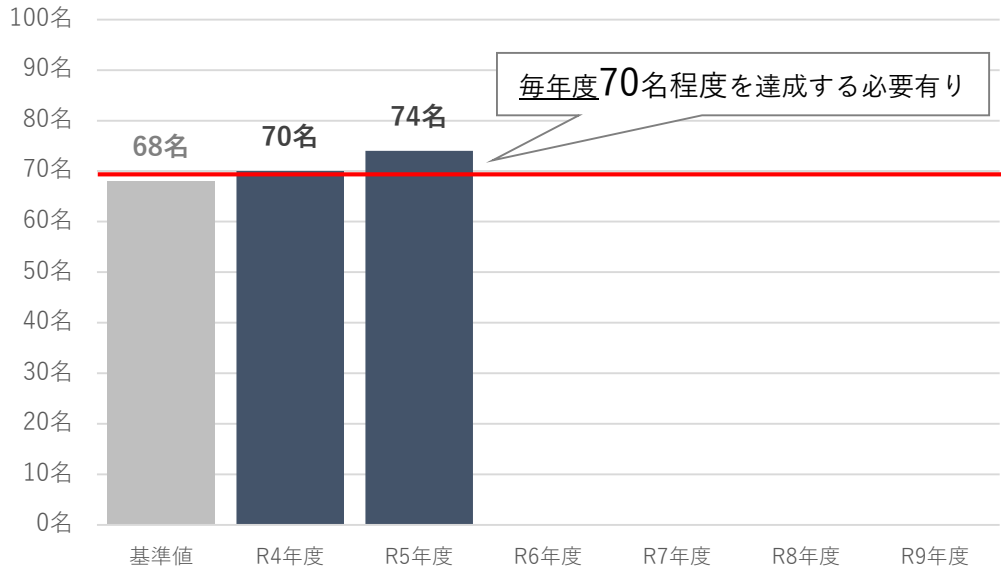
少人数で課題を探究する科目 (ILASセミナー) 開講科目履修者数 **10%増加 (→2,140名)**  
 (基準値：令和2年度1,945名) (達成時期等：第4期中期目標期間**最終年度**)



## 評価指標【7】

意欲的な  
評価指標

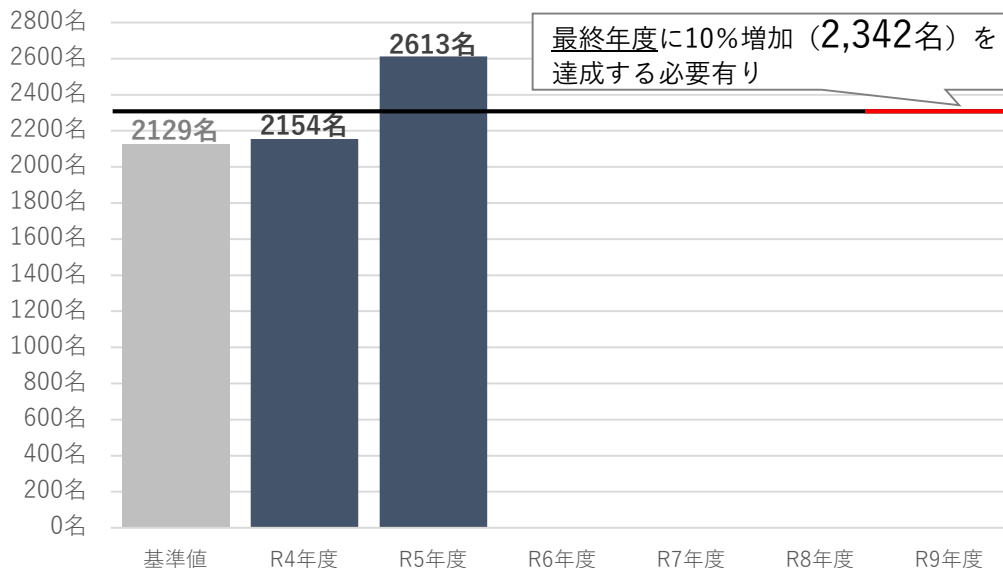
(修士課程) 大学独自の奨学金支給対象者数 月10万円の奨学金を**70名程度**に支給  
(第4期からの新規事業) (基準値: 令和3年度68名) (第4期中期目標期間中 **毎年度**)



意欲的な  
評価指標 達成水準を満たせば、それ以外の評価指標が達成水準を満たした場合よりも高く評価される

## 評価指標【8】-2 (再掲【10】-2)

横断科目及び大学院共通科目の合計履修者数 **10%増加 (→2,342名)**  
(基準値: 令和2年度2,129名) (達成時期等: 第4期中期目標期間**最終年度**)

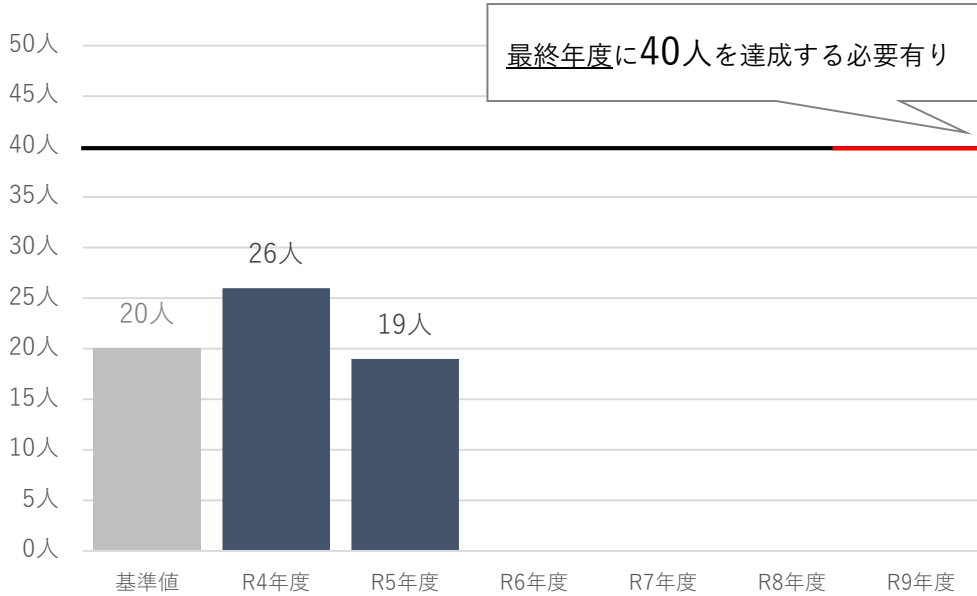




### 評価指標【11】-1（再掲【14】-1）

Kyoto iUPの入学者数 **40人**

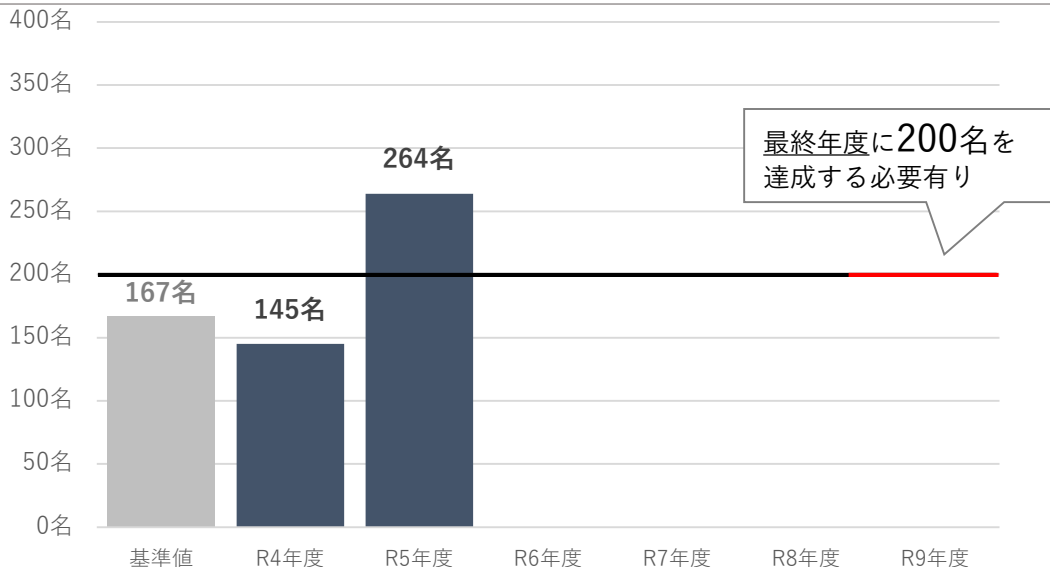
（基準値：令和3年度20人）（達成時期等：第4期中期目標期間**最終年度**）



### 評価指標【11】-2（再掲【14】-2）

中長期及び短期の海外留学者（学部生）400名のうち、交換留学生と単位認定の仕組みを伴う短期プログラム等への派遣人数 **200名**

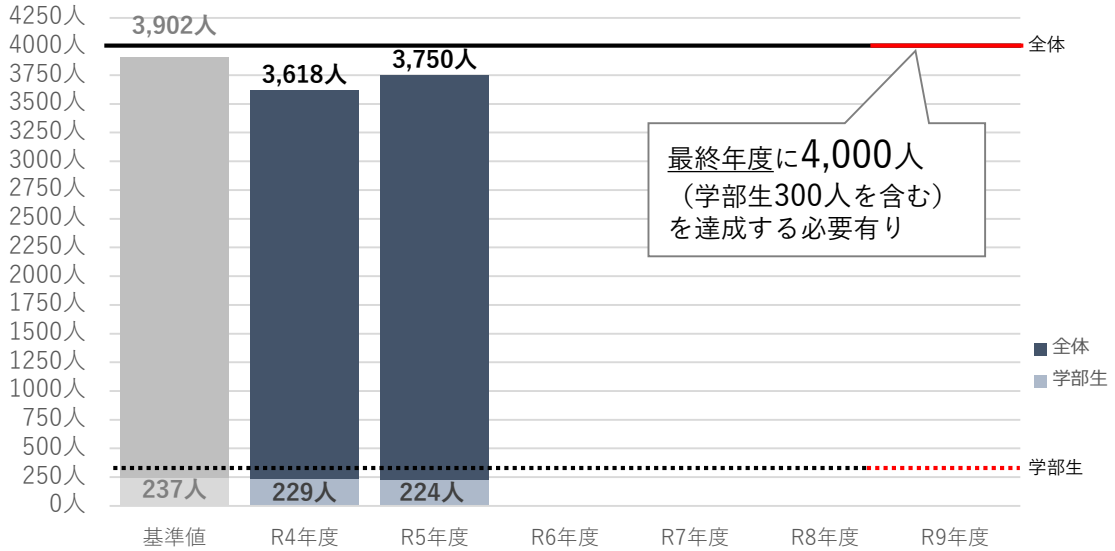
（基準値：令和元年度408名（うち交換留学生及び単位認定の仕組みを伴うもの167名）ただし、令和2年度以降コロナ禍により大幅減）（達成時期等：第4期中期目標期間**最終年度**）



### 評価指標【12】-1 (再掲【15】-1)



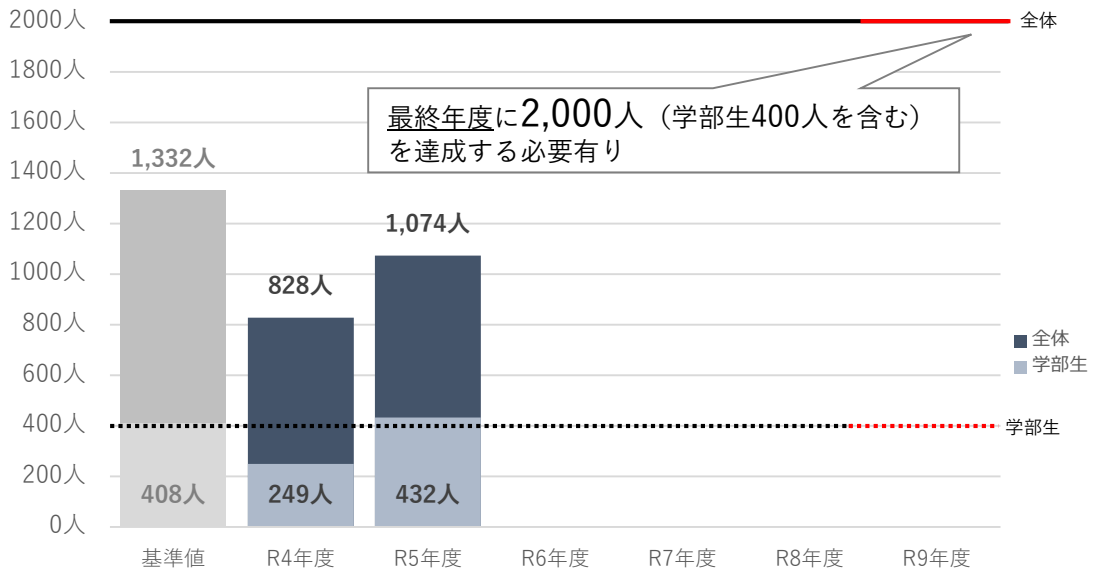
外国人留学生数 **4,000人** (学部生**300人**を含む)  
 (基準値：令和元年度3,902名 (うち学部生237名) ただし令和2年度以降コロナ禍により大幅減)  
 (達成時期等：第4期中期目標期間**最終年度**)



### 評価指標【12】-2 (再掲【15】-2)

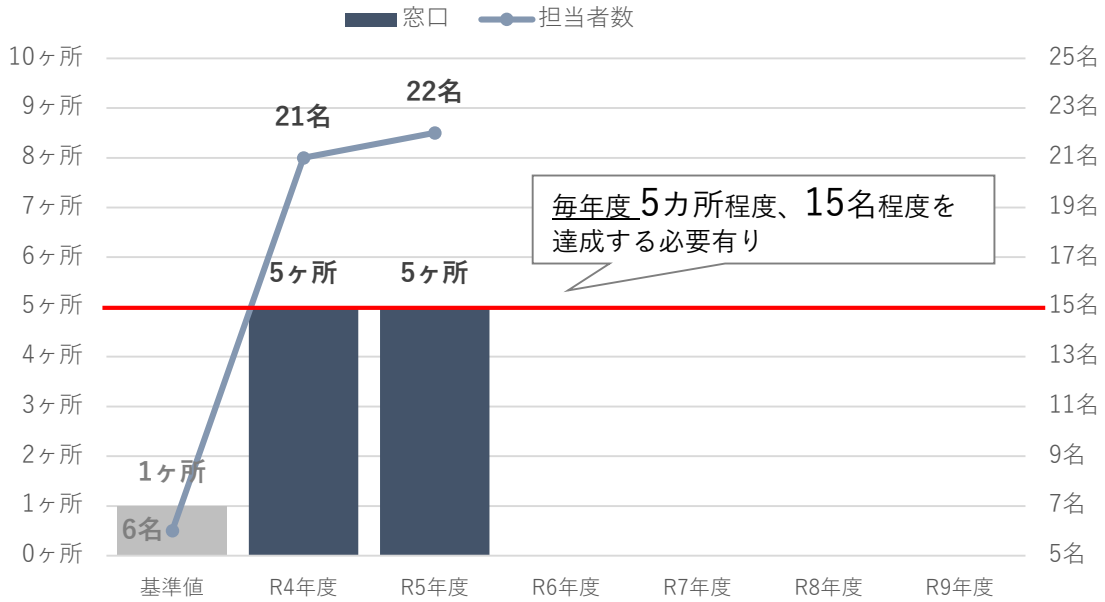


中長期及び短期の海外留学者数の増加状況 **2,000人** (学部生**400人**を含む)  
 (基準値：令和元年度1,332名 (うち学部生408名) ただし令和2年度以降コロナ禍により大幅減)  
 (達成時期等：第4期中期目標期間**最終年度**)



## 評価指標【16】

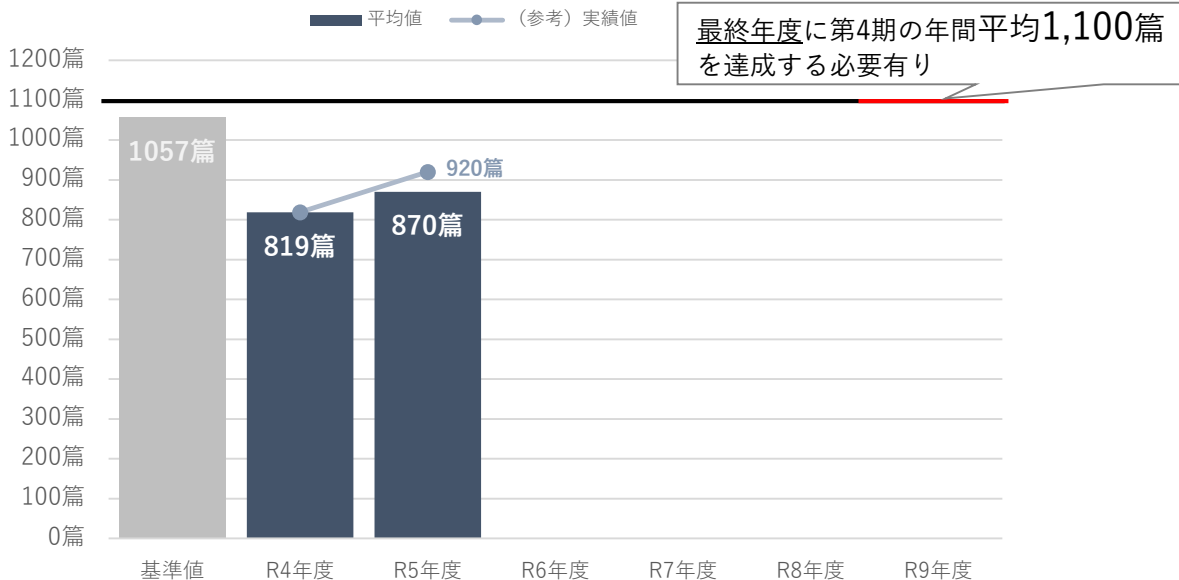
相談窓口 **5ヶ所程度**、担当者数 **15名程度**  
 (基準値：令和3年度1ヶ所、6名) (達成時期等：令和4年度に設置し、以後、維持運営)



## 評価指標【17】 -2 (再掲【20】 -2)

指定国立  
大学法人  
KPI

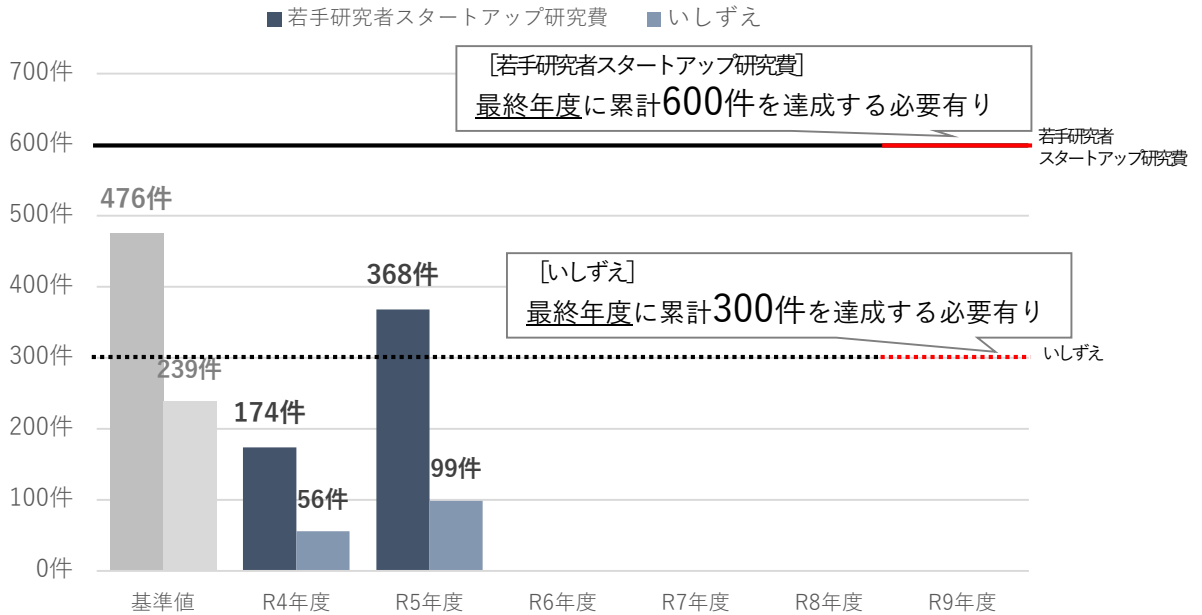
国際的に評価の高いジャーナル (Top10%) への掲載論文数 年間**平均1,100篇**  
 (基準値：平成28~31年度平均1,057篇) (達成時期等：第4期中期目標期間**最終年度**)



### 評価指標【18】（再掲【21】）

若手研究者等が着任時に研究を開始するための研究費の支援（「若手研究者スタートアップ研究費」）、中堅研究者等がより大型の研究費を獲得するための支援（「いしずえ」）の採択件数（第4期中）若手研究者スタートアップ研究費 **累計600件**、いしずえ **累計300件**

（基準値：第3期累計若手研究者スタートアップ研究費 476件、いしずえ 239件）（それぞれ第3期比約30%増）（達成時期等：第4期中期目標期間**最終年度**）

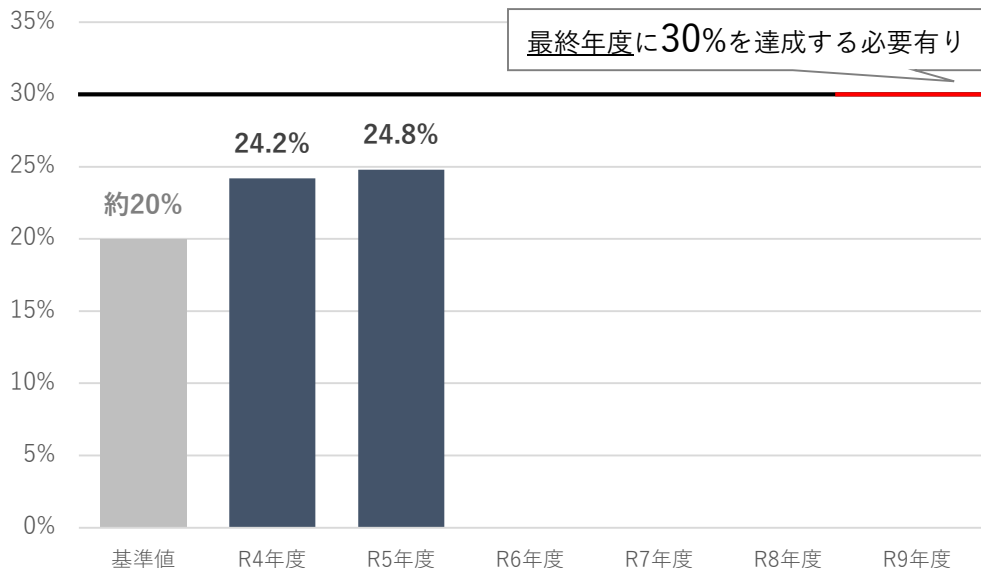


### 評価指標【19】（再掲【22】、【24】-1）



若手教員及び研究者の割合 **30%**

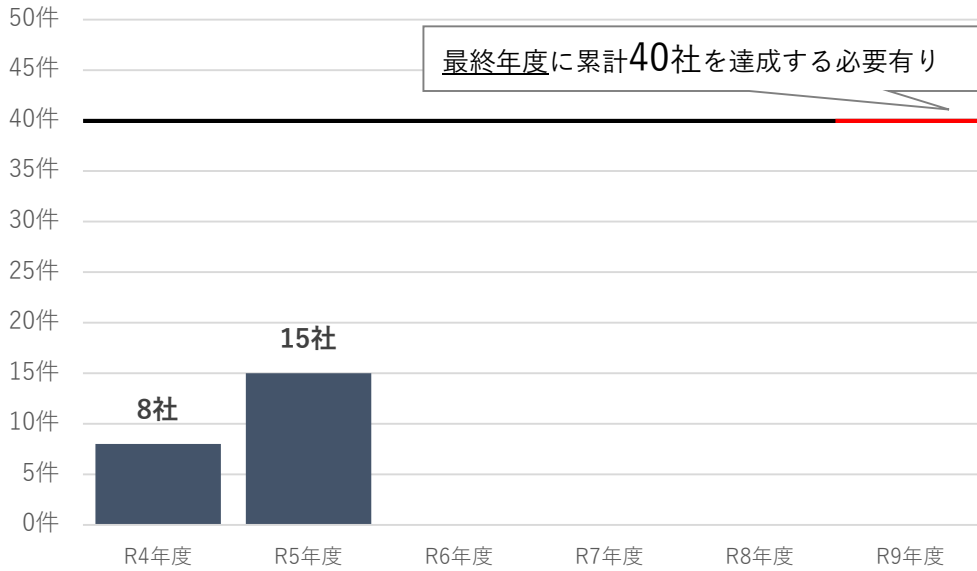
（基準値：平成29年度約20%）（達成時期等：第4期中期目標期間**最終年度**）





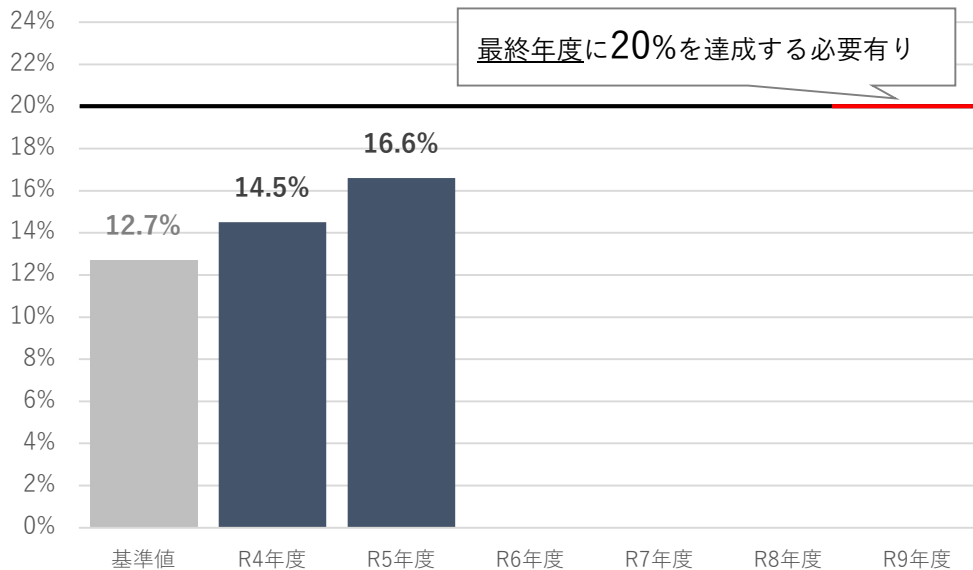
### 評価指標【23】

ベンチャー企業創出数 第4期中期目標期間において新たに**40社**  
 (年間6~7件程度の増加) (達成時期等: 第4期中期目標期間**最終年度**)



### 評価指標【24】-2

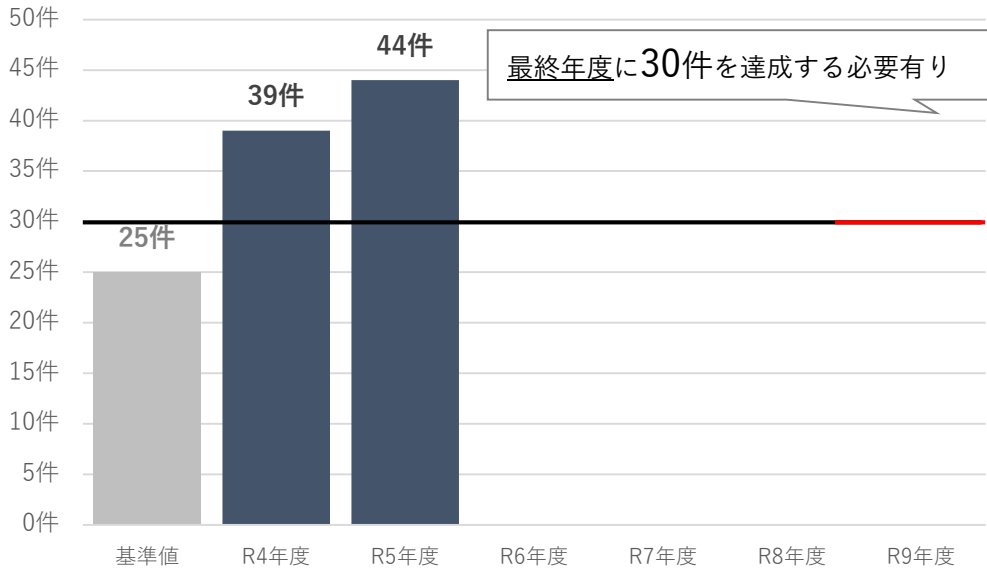
女性教員比率 **20%**  
 (基準値: 令和2年5月実績12.7%) (達成時期等: 第4期中期目標期間**最終年度**)



## 評価指標【25】

On-site Laboratoryや戦略的パートナーシップ事業に基づく、国際共同研究への支援件数  
年間**30件**

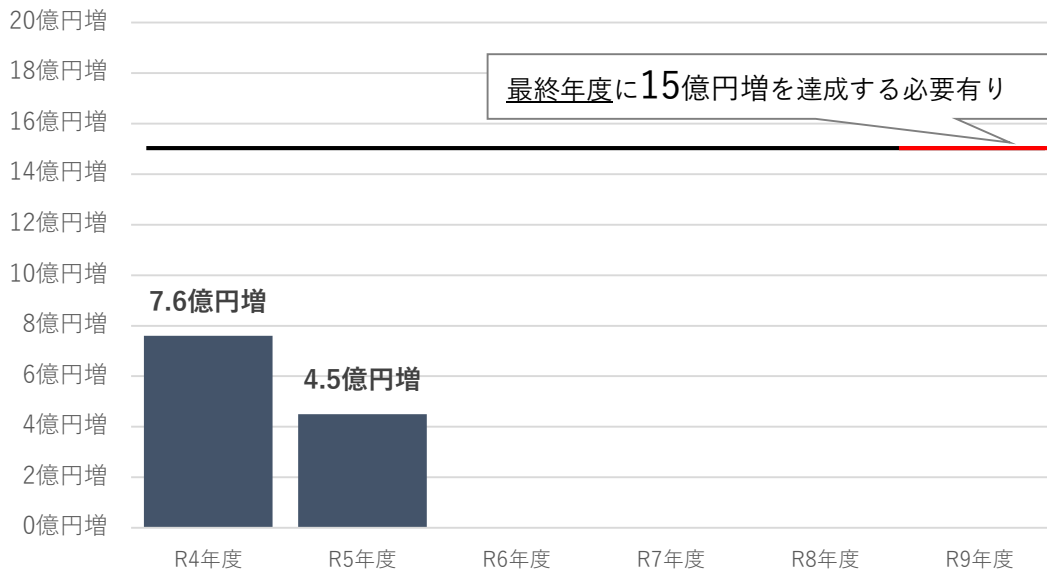
(基準値：令和3年度25件) (達成時期等：第4期中期目標期間**最終年度**)



## 評価指標【27】-1 (再掲【39】-1)

大型共同研究の実施金額 **15億円増**

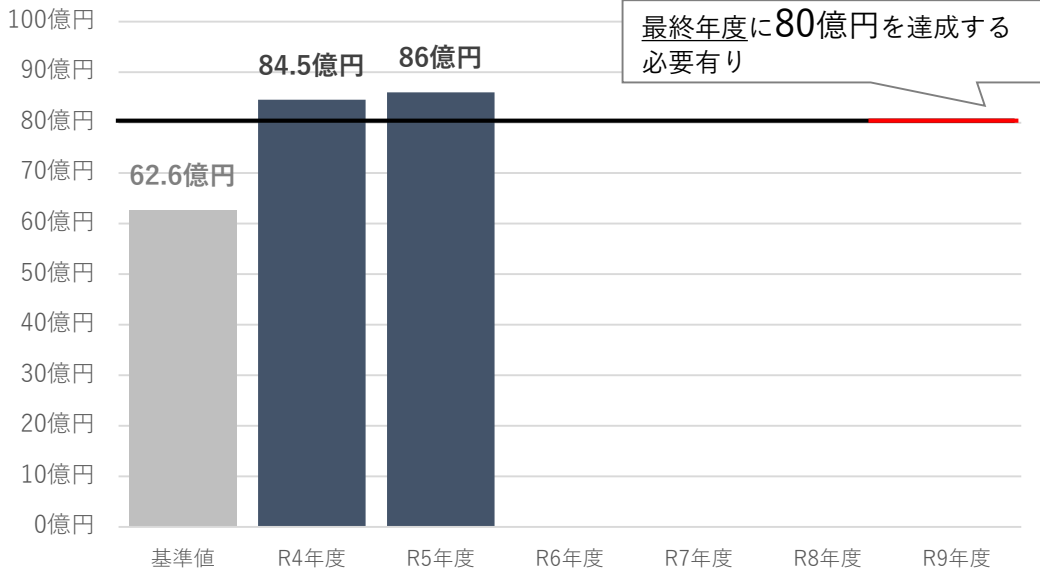
(第3期年平均額比70%増) (達成時期等：第4期中期目標期間**最終年度**)





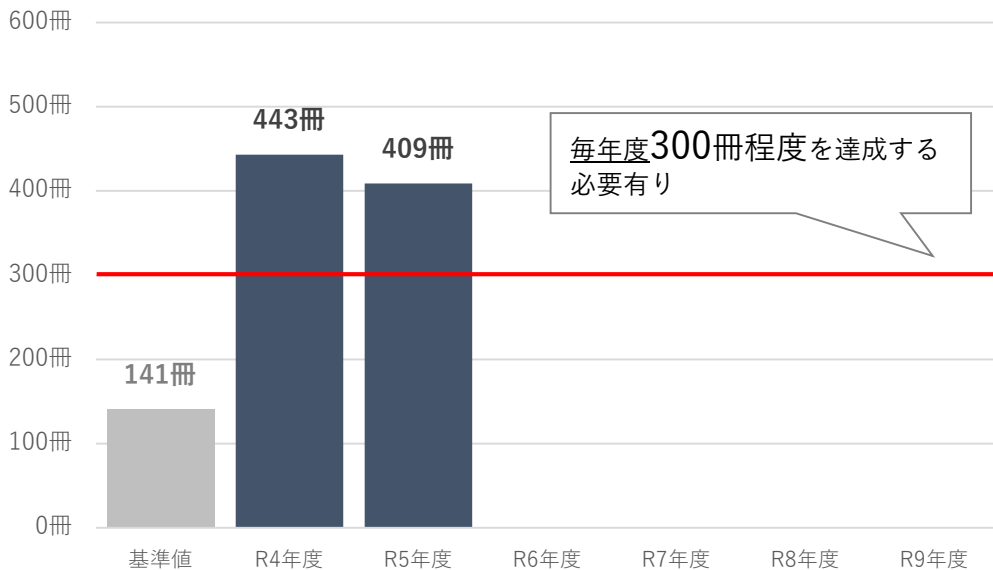
### 評価指標【27】-2（再掲【39】-2）

共同研究の実施金額 **年間80億円**  
 （基準値：令和元年度実績62.6億円）（達成時期等：第4期中期目標期間**最終年度**）



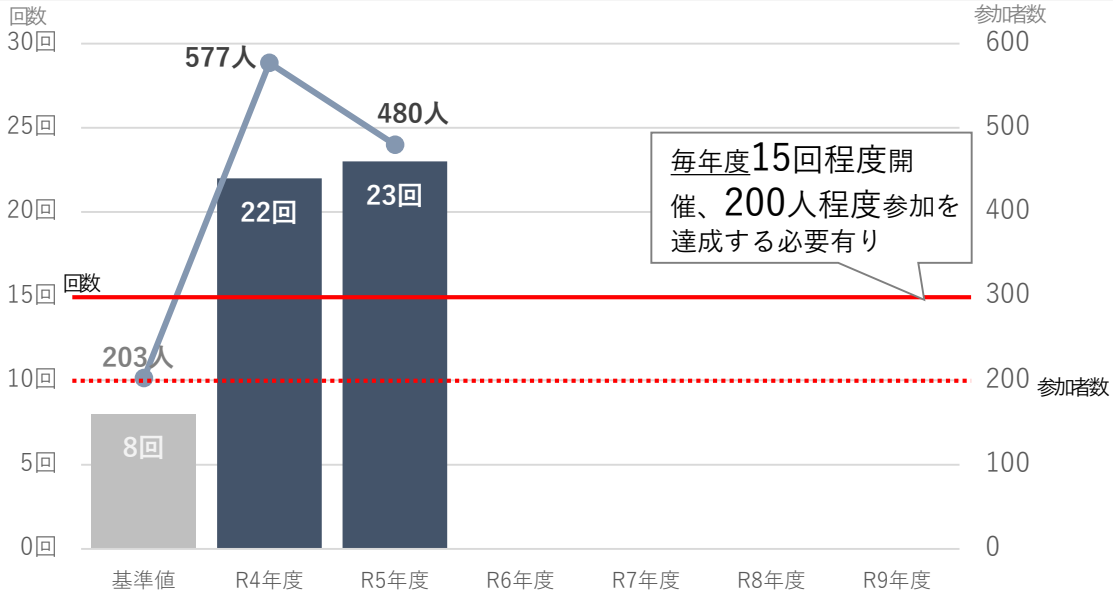
### 評価指標【28】-1

電子ブックの増加 **年間300冊程度**  
 （基準値：令和2年度141冊）（達成時期等：第4期中期目標期間中 **毎年度**）



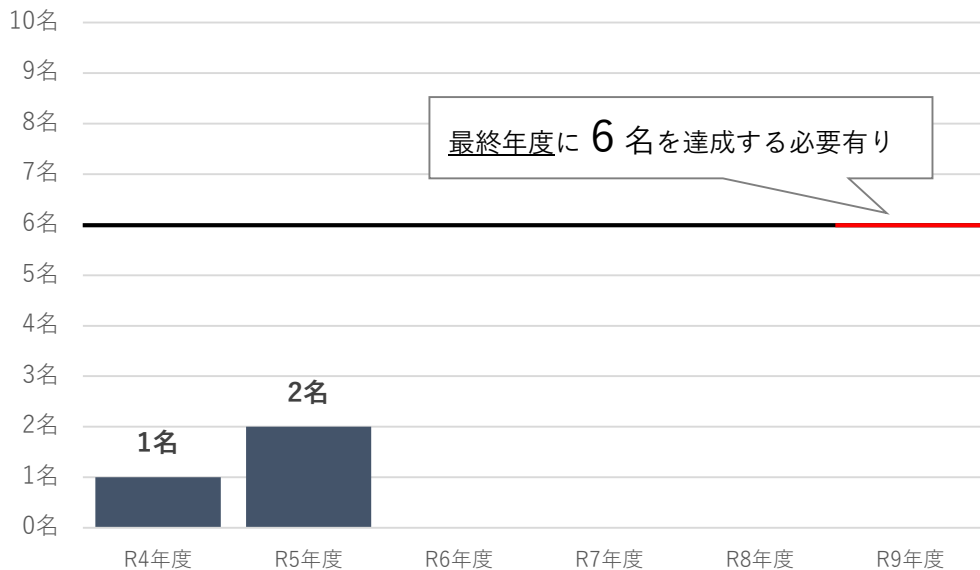
## 評価指標【28】-2

学術情報リテラシー教育支援事業の実施状況（年間、**15回程度開催**、**200人程度参加**）  
 （基準値：令和2年度開催8回、平成28～令和2年度平均参加203人）  
 （達成時期等：第4期中期目標期間中 **毎年度**）



## 評価指標【29】-1

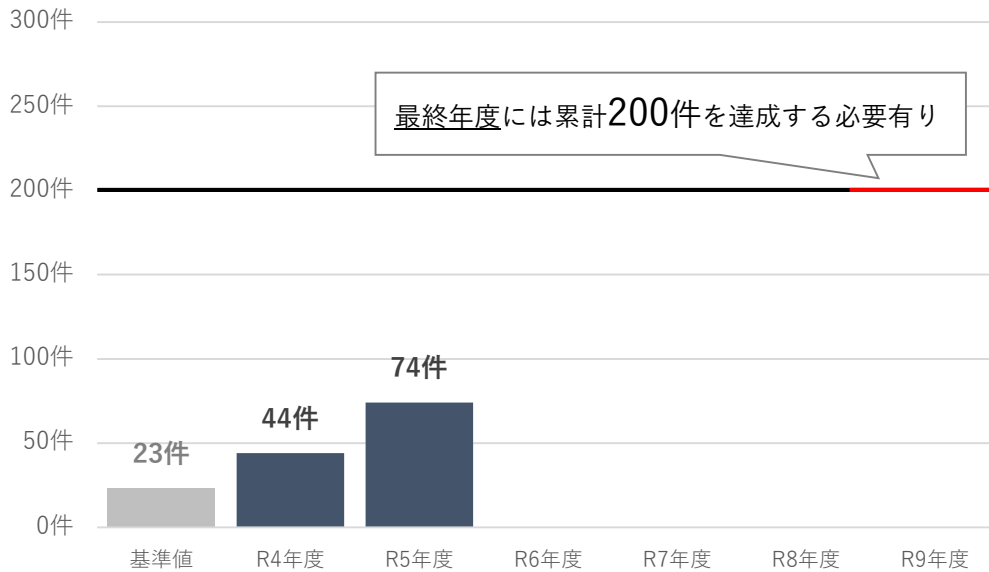
臨床研究を専らとする教員の病院財源での雇用状況配置数 **6名**  
 （第4期からの新規事業）（達成時期等：第4期中期目標期間**最終年度**）





## 評価指標【29】-2

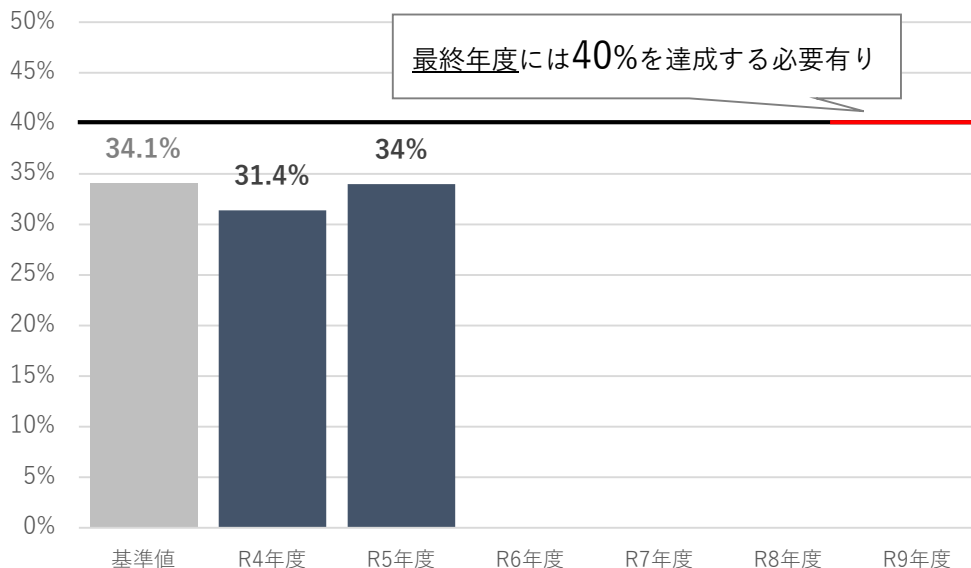
先進的臨床研究の受託及び実施数 **累計200件**  
 (First in human (FIH) 試験、iPS細胞等を活用した再生医療、希少疾患関連臨床試験、医師主導治験、先進医療、臨床研究法遵守特定臨床研究実施件数)  
 (基準値：令和2年度23件) (達成時期等：第4期中期目標期間**最終年度**)



## 評価指標【29】-3

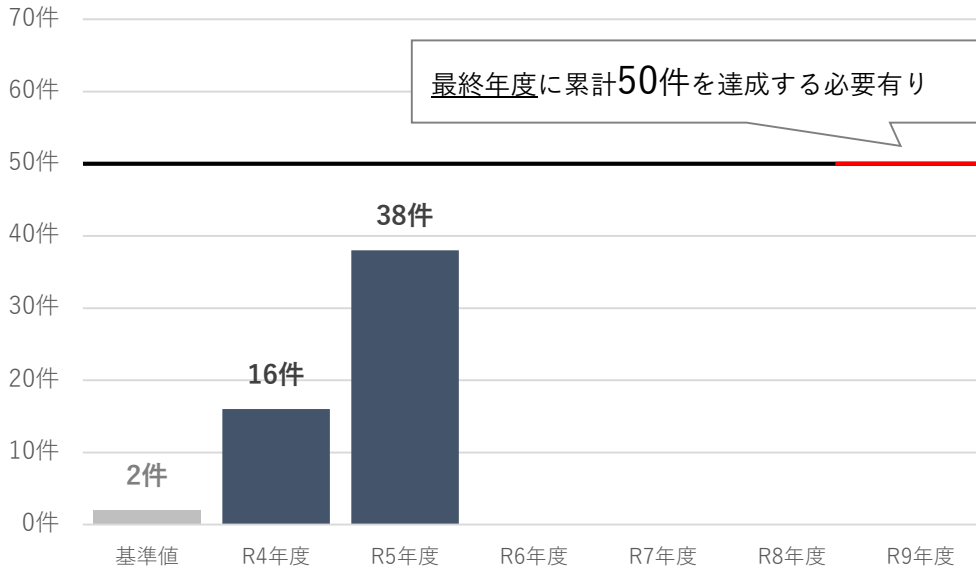
意欲的な  
評価指標

クリニカルバイオリソース利用率 **40%**  
 (基準値：令和2年度34.1%) (達成時期等：第4期中期目標期間**最終年度**)



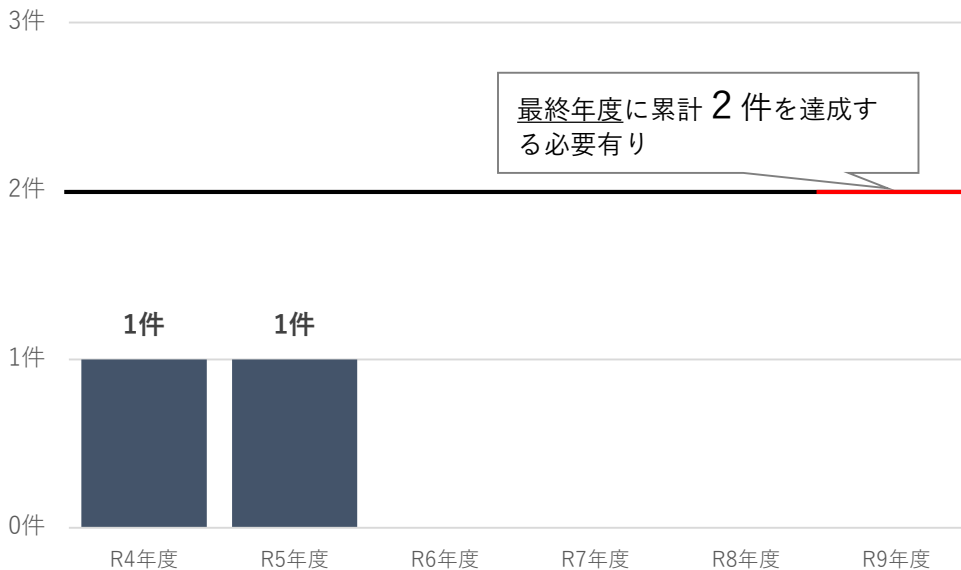
### 評価指標【29】-4

リアルワールドデータ利用件数 **累計50件**  
 (基準値：令和3年度2件) (達成時期等：第4期中期目標期間**最終年度**)



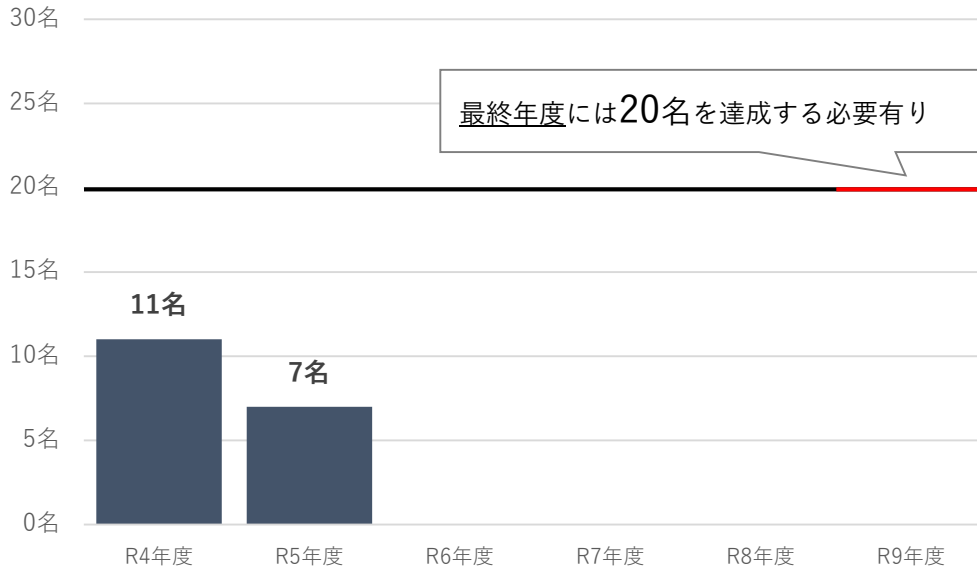
### 評価指標【31】-1

社会人向けインテンシブコースの設置数 **累計2件**  
 (達成時期等：第4期中期目標期間**最終年度**)



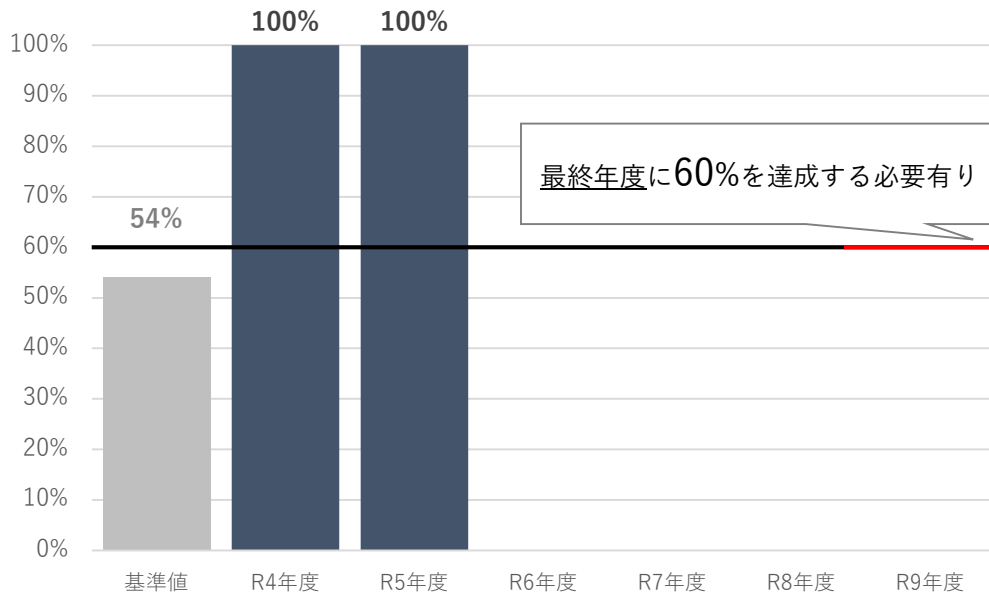
### 評価指標【31】-2

社会人向けインテンシブコースへの参加者数 **20名**  
 (達成時期等：第4期中期目標期間**最終年度**)



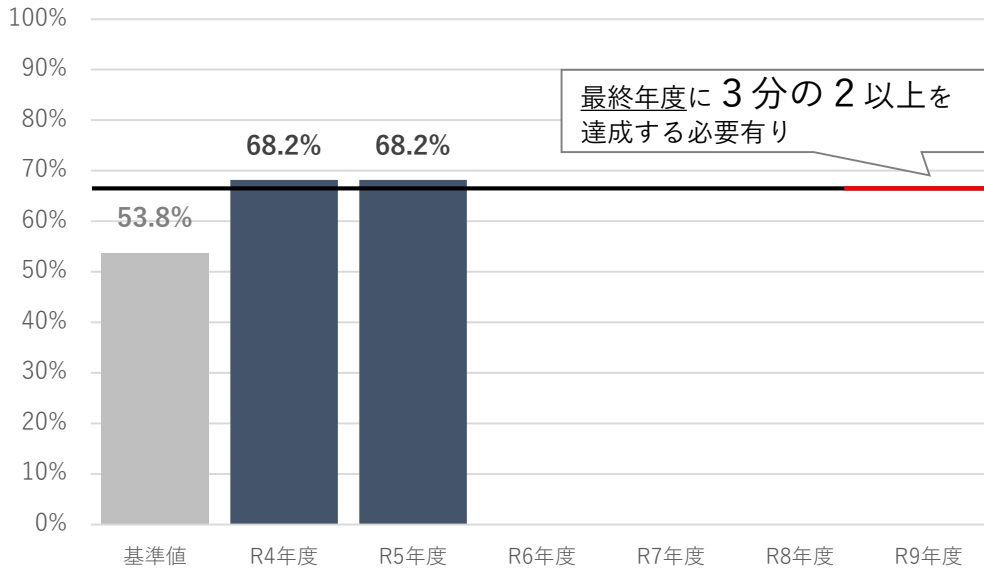
### 評価指標【32】-1

戦略調整会議からの答申等の大学運営への反映実績 **60%** (第3期中期目標期間比6ポイント増)  
 (基準値：第3期54%) (達成時期等：第4期中期目標期間**最終年度**)



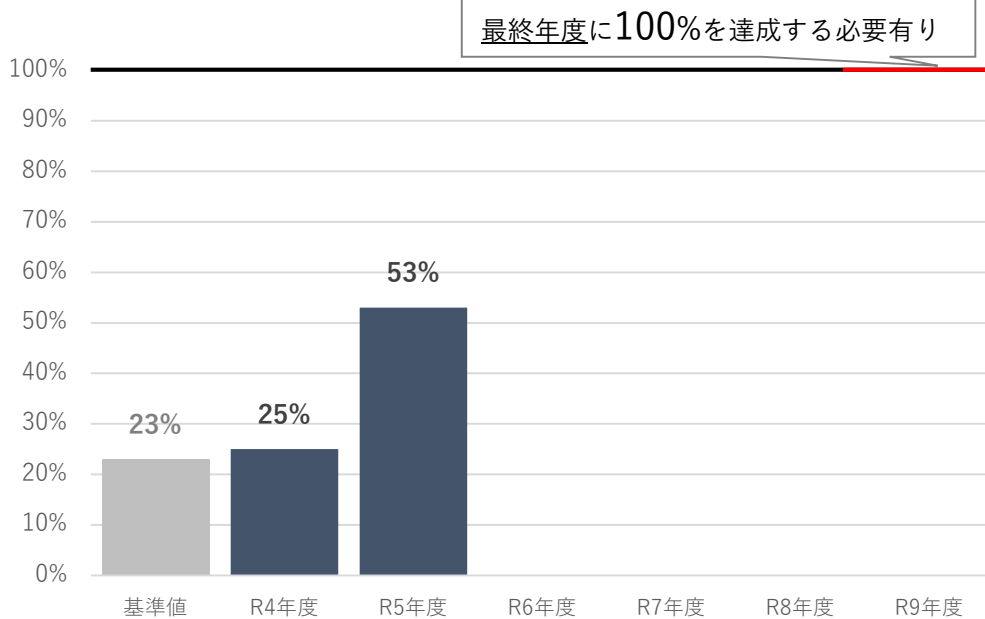
## 評価指標【32】-2

経営協議会の委員構成において、**3分の2以上**を学外委員とする。  
 (基準値：令和3年度26名中14名) (第4期中期目標期間**最終年度**)



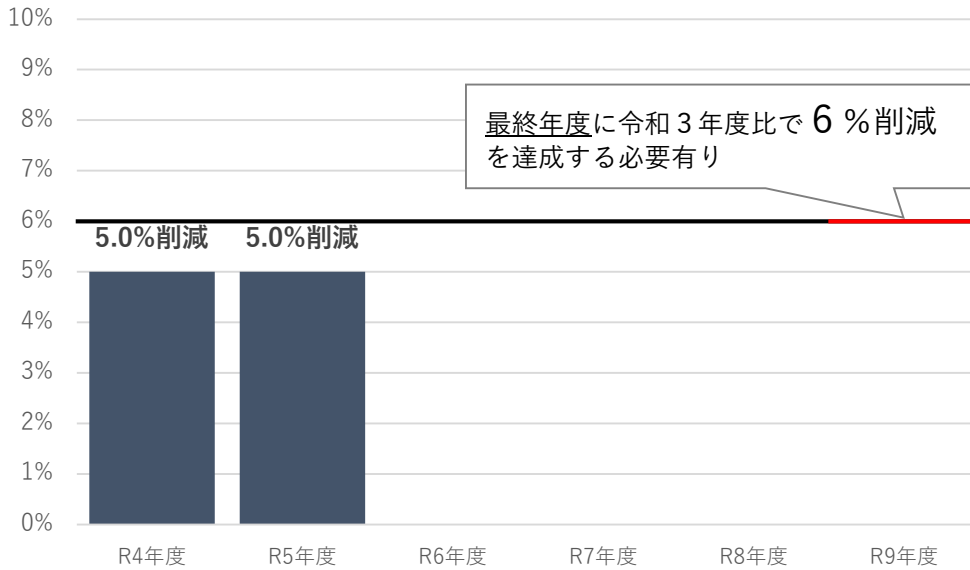
## 評価指標【33】-1

主要キャンパスにおいて、建物単位での電力使用状況の見える化を**100%**達成する。  
 (基準値：令和3年度23%) (達成時期等：第4期中期目標期間**最終年度**)



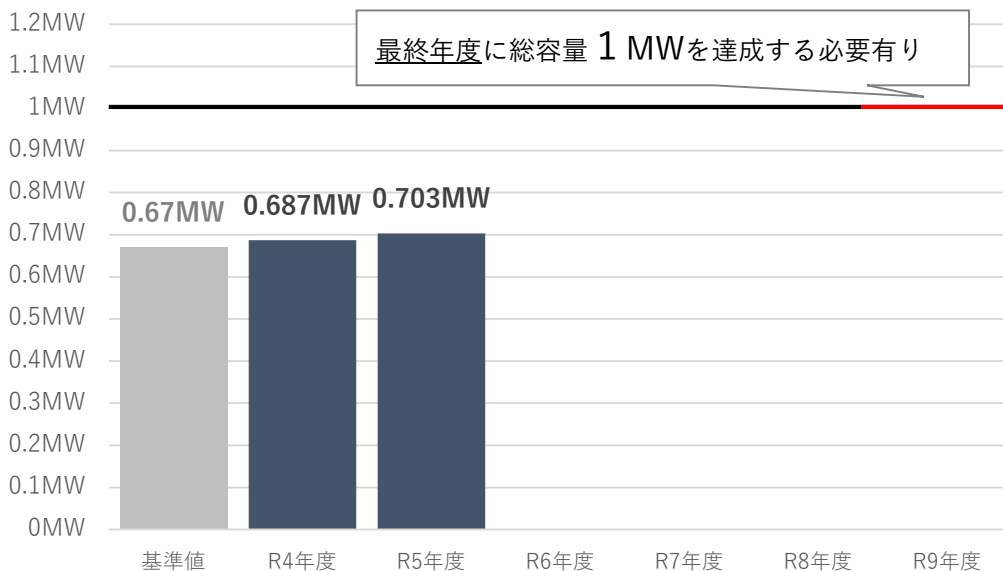
### 評価指標【33】-2

エネルギー消費原単位を、令和3年度比で**6%削減**する。  
 (達成時期等：第4期中期目標期間**最終年度**)



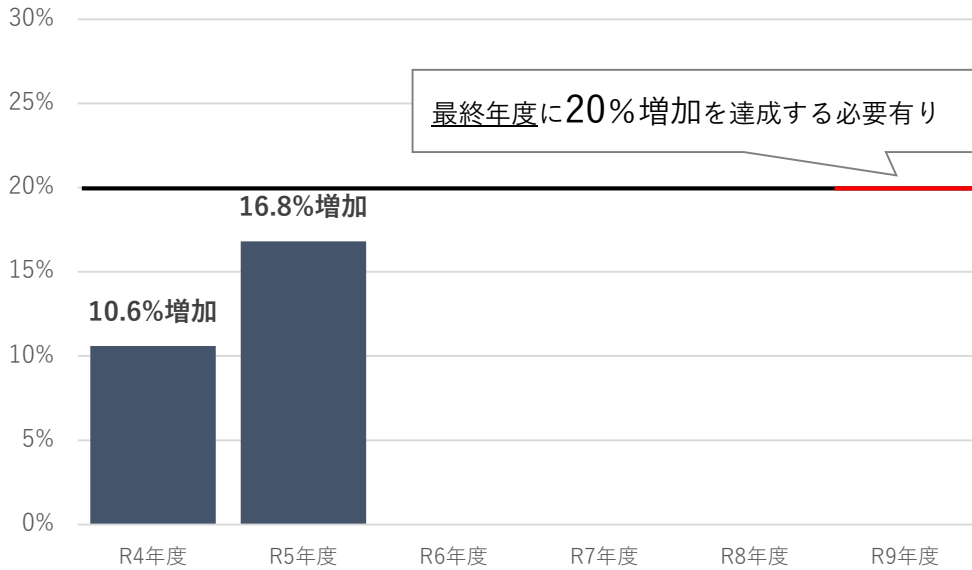
### 評価指標【33】-3

自家消費型再エネ発電設備の普及を促進し、総容量**1 MW**を達成する。(令和3年度比49%増)  
 (基準値：令和3年度0.67MW) (達成時期等：第4期中期目標期間**最終年度**)



### 評価指標【35】

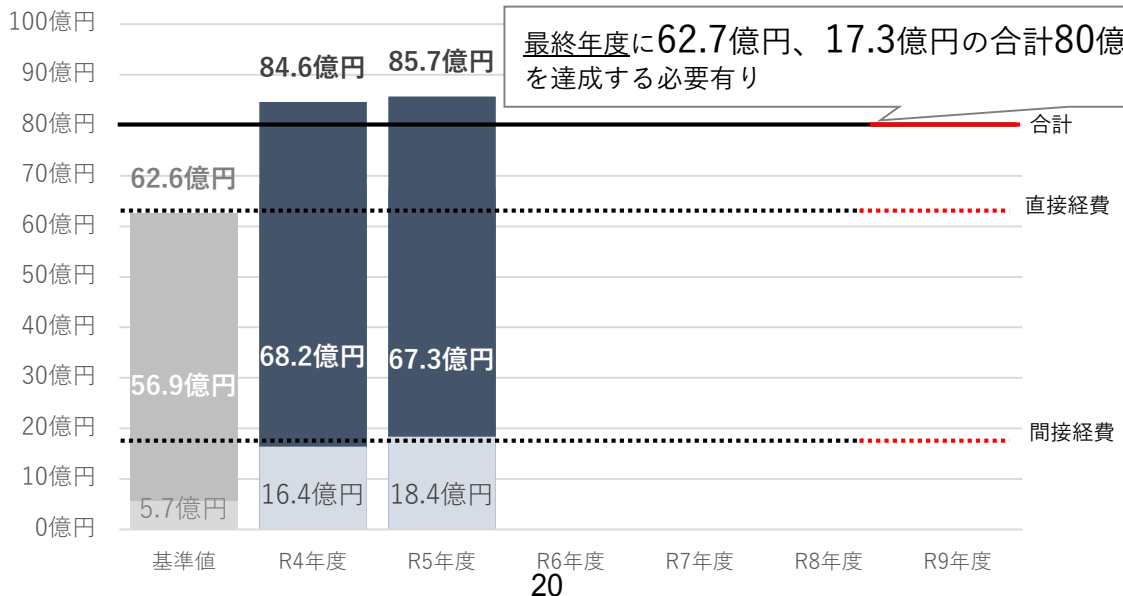
スペース運用及び再配分面積の増加状況 **20%増加**  
 (第3期(平成28年度～令和2年度)7%増に対して13ポイント増)  
 (達成時期等:令和3年度と比べて第4期中期目標期間**最終年度**)



最終年度に20%増加を達成する必要有り

### 評価指標【37】

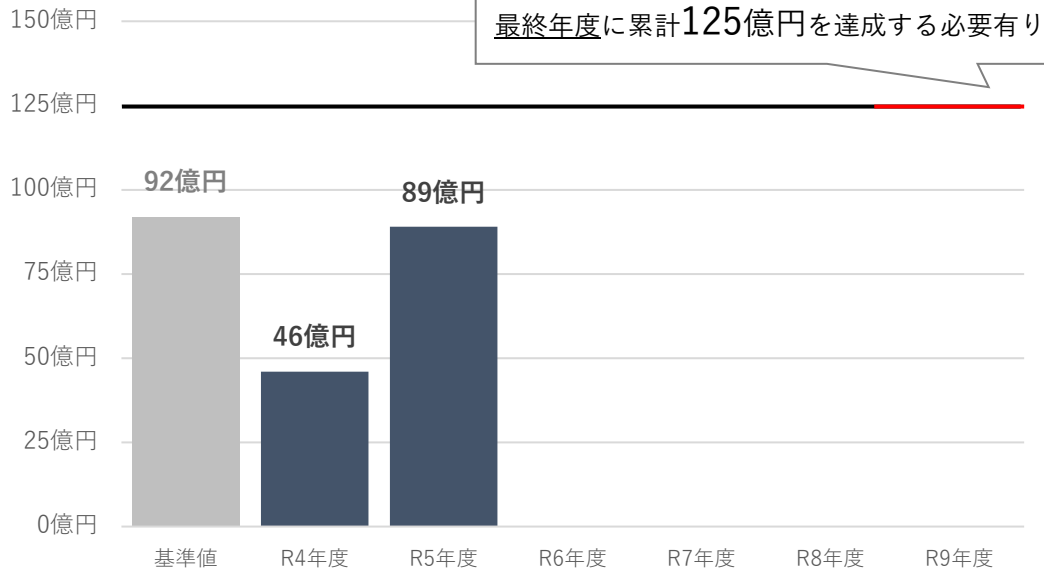
直接経費**62.7億円**、間接経費**17.3億円**、**合計80億円**(中期計画【27】【39】の目標値)の受入額  
 (間接経費率については、第3期の平均9.2%の3倍増)  
 (基準値:令和元年度 直接経費56.9億円、間接経費5.7億円、合計62.6億円)  
 (達成時期等:第4期中期目標期間**最終年度**)



最終年度に62.7億円、17.3億円の合計80億円を達成する必要有り

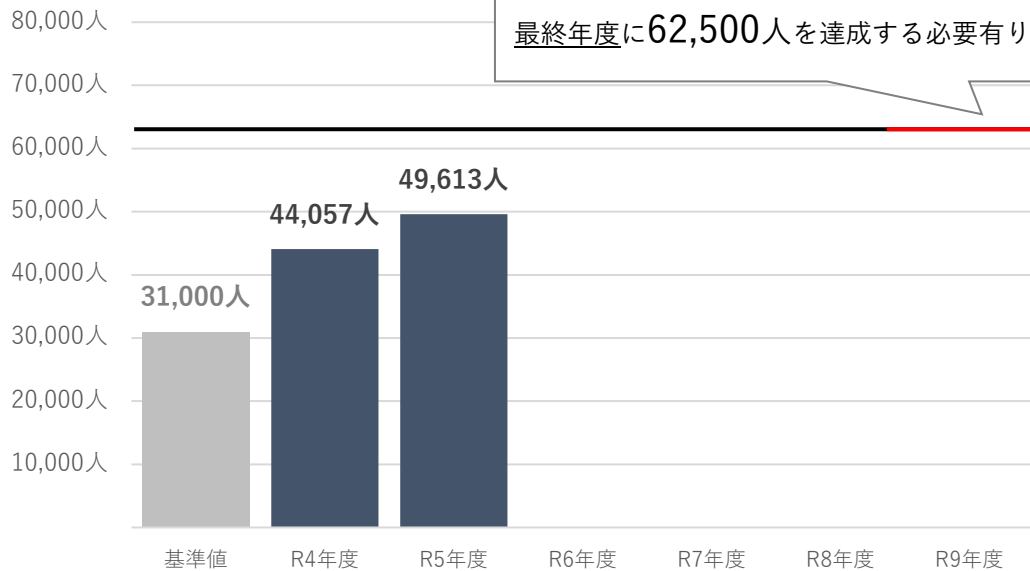
### 評価指標【38】

京都大学基金（特定基金を含む）の寄附受入額 期間中累計125億円  
 （基準値：第3期期間中目標額92億円）（達成時期等：第4期中期目標期間最終年度）



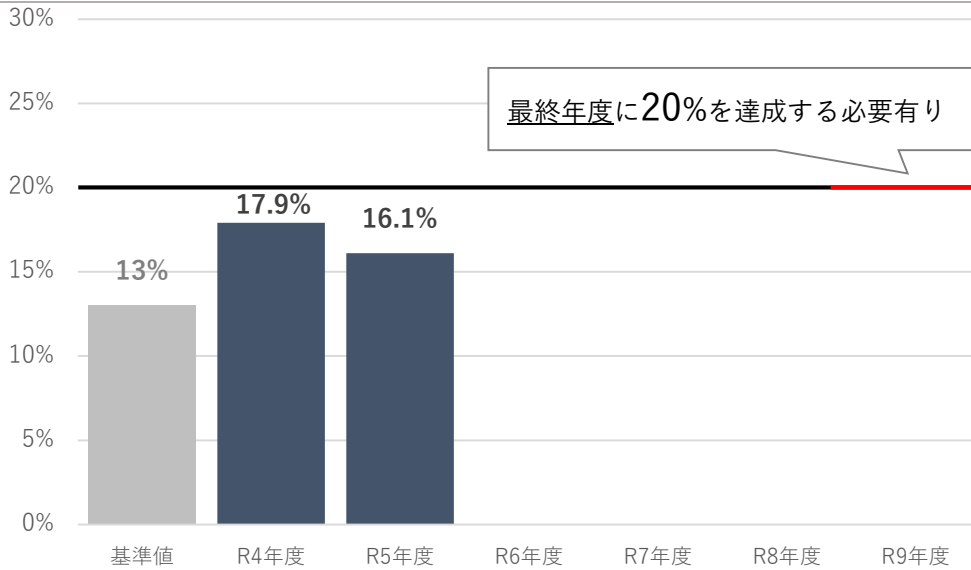
### 評価指標【40】-2

KUON（同窓生向けサービス）の登録者数 62,500人  
 （基準値：令和2年度末登録者数比約200%）  
 （達成時期等：第4期中期目標期間最終年度）



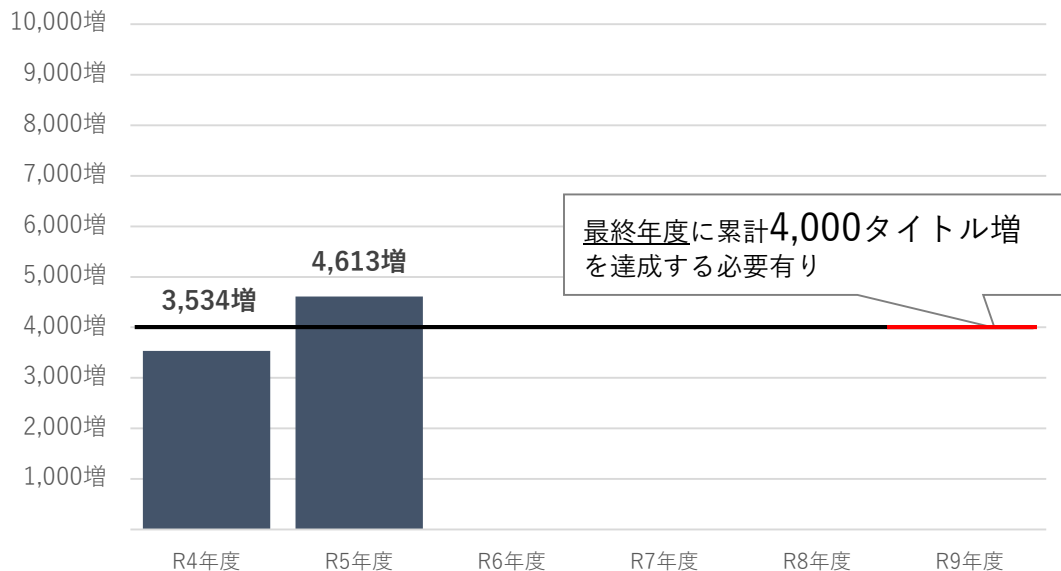
### 評価指標【42】-1

教育研究活動データベースに教員が登録した研究業績(論文)のうち、KURENAIに登録された論文の割合 最終年次に**20%**到達  
 (令和2年度13%から年間1ポイント強増加)  
 (基準値：令和2年度13%) (達成時期等：第4期中期目標期間**最終年度**)



### 評価指標【42】-2

貴重資料デジタルアーカイブのコンテンツ公開数 最終年次に**累計4,000タイトル増**  
 (令和2年度末時点累積公開数 20,564タイトル)  
 (達成時期等：第4期中期目標期間**最終年度**)





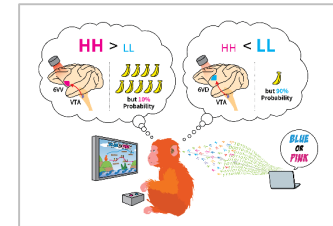
# (参考) 指定国立大学法人構想に係る令和5年度の進捗状況について

本学は、文部科学大臣により、我が国の大学における教育研究水準の著しい向上とイノベーション創出を図るため、世界最高水準の教育研究活動の展開が相当程度見込まれる国立大学法人として指定国立大学法人に指定されています。

指定国立大学法人としての取組の一部は、第4期中期目標における中期計画でも掲げられておりますので、当ページでは第4期中期目標・中期計画に含まれない優れた取組等をご紹介します。

## 最先端研究の推進（高等研究院）

リスクと報酬の意思決定バランスを光で調節- 精神神経疾患などの病態解明に期待 -  
WPI 拠点であるヒト生物学高等研究拠点（ASHBi）の伊佐正教授らを中心とする研究チームが、オプトジェネティクス（光遺伝学）の技術によってサルの神経経路を操作することにより、報酬とリスクを獲得するバランスの制御に関わる霊長類の戦略的意思決定の脳神経回路機構を解明した。本研究成果により、これまで明らかとされていなかった意思決定プロセスの一端が明らかとなり、全体像の解明へ大きく前進した。



## 学生（卓越大学院プログラム）

「先端光・電子デバイス創成学」、「メディカルイノベーション大学院プログラム」、「社会を駆動するプラットフォーム学卓越大学院プログラム」について、順調に学生が入学しており、それぞれ59名、96名、38名（令和6年3月31日現在）の履修者が在籍し、プログラム修了者20名を輩出している。

## 社会への貢献（日本とASEANの相互発展）

「日ASEAN 科学技術イノベーション共同研究拠点-持続可能開発研究の推進」（JASTIP）により、中核拠点・研究総括班（WP1）として共同研究のコミュニティを拡大・強化するJASTIP-Netを企画実施した。本プロジェクトにおいて、新規に23件の共同研究ネットワークの形成を支援し、SDGs達成に向けた多面的・多層的な共同研究プラットフォームの形成を行った。なお、本プロジェクトについては全学海外拠点であるASEAN拠点が支援を行った。また、リサーチ・アドミニストレーター（URA）が、科学技術連携を担うコーディネーター人材の育成に向けて、ASEAN地域での各種会議及びワークショップで講演を行い、日ASEAN共同研究のネットワークの基盤強化を図った。さらに、日ASEAN友好協力50周年を記念するイベント（5月・8月・11月）の企画・運営に加わり、科学技術イノベーションにおけるASEAN地域との連携体制を強化した。

